

Hanna Jujka

「日本文化のおかげで発見した家族との絆」

日本の文化はポーランド人には主に侍やお寿司や車などで知られています。日本語の勉強を始める前は私もそんな事だけしか知りませんでした。それが中学校三年生の時、私の学校に日本人の留学生が来ました。二人はポーランドの大学でポーランド語を勉強していました。彼女たちはとてもきれいな着物を着ていました。クラスのみんなに折り紙や生け花を見せてくれました。それがきっかけで私は日本語を勉強したいと思いました。そして、すぐに日本語を習い始めました。

それから三年が経ちました。先生に勧められてスリーエーネットワーク出版社の作文コンクールに応募しました。作文のテーマは「私の町」でした。私は自分の大好きな故郷グダニスクについて書きました。作文を書くためにグダニスクについて詳しい情報を調べました。私の祖父はグダニスクの事をよく知っています。だから、祖父に色々な事を聞きました。祖父はコンクールの事を聞いて、とても喜びました。「結果はどうであれ、チャレンジをする気持ちが大切だよ。」と言ってくれました。それで私はがんばる事に決めました。

作文を書く時も、グダニスクの絵を書く時もずっと祖父の言葉を思い出していました。それから、一ヶ月後、スリーエーネットワークから連絡が来ました。信じられない事に私が書いた作文がスリーエーネットワークのミニ新聞「ジャネット」に載る事になったのです。感激のあまり、私はすぐに家族に電話でその事を知らせました。お母さんは「すごいわね。二人も賞をとるなんて。」「二人も？だれのこと？」と私は母に聞きました。「実はね。おじいちゃんも昔、読売新聞のコンクールで賞をとった事があるのよ。」

私はとても驚きました。今までは家族の絆についてはあまり考えた事はありませんでした。まさか日本文化を通じてそれが分かるとは思っていませんでした。おじちゃんは私の誇りです。そして、これからはおじいちゃんの言葉を胸にきざんで色々な事にチャレンジするつもりです。